

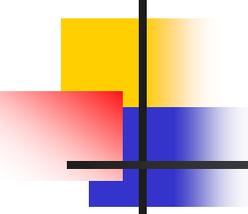
2008年3月19日

オペリスクにおける 外部データ活用の基本論点

日本銀行金融機構局金融高度化センター

大山 剛

アジェンダ



1. AMAの4要素
2. 過少データの問題
3. 外部データ/プーリング・データの活用
4. 外部データ/プーリング・データ活用に係るチャレンジ
5. データ・プーリングに必要な要素とは

1. AMAの4要素

- 内部データ
- 外部データ
- シナリオ分析
- 外部環境と内部統制要因



信頼水準99.9%のオペリスクを計測するためには、4要素間で、如何なるバランスが求められるのか

- 内部データ: 自行のリスクプロファイルを知る基本(但し、数が不足)
- 外部データ: サンプル不足を補う貴重な情報(但し、自行と他行は違う)
- シナリオ分析: 実データの限界を補う(但し、データとしての客観性に劣る)
- 外部環境と内部統制要因: オペリスクの特殊性(安定した外部環境認識の難しさ、リスクの内生性)をカバー(但し、データ化そのものが困難)

2. 過少データの問題

■ 邦銀のオペリスク損失件数は絶対的に少ない オペリスク管理が比較的優れていた証左 一方で統計的解析には堪えられない

以下は百万円(\$10,000)以上の年平均損失件数(邦銀は14行、米銀は23行合計)

■ イベントタイプ別の損失件数(日米LDCEの比較)

	内部不正	外部不正	労務職場	顧客商品取引	有形資産	システム	プロセス
邦銀	16.6	343.2	14.0	82.7	18.2	102.7	363.2
米銀	619.2	7,164.9	1,397.7	1,693.2	136.5	135.6	6,489.7

■ ビジネスライン別の損失件数(日米LDCEの比較)

	コーポレート・ファイナンス	トレーディング/セールス	リテール・バンキング	コマース・バンキング	支払い・決済	代理業務	資産運用	リテール・ブローケッジ
邦銀	4.5	43.9	537.9	242.0	5.8	49.7	20.0	32.8
米銀	59.1	1,334.9	11,049.1	934.9	820.3	928.7	449.3	1,331.1

■ 全体の件数は百万円以上の件数の約30倍程度(日本)

■ 計算ユニット毎に最低30件程度のデータは必要？

3 . 外部データ/プーリングデータの活用

- 内部統制・ビジネス特性が変わらなければ、他行で起きたことは自行でも同じように起き得る
- 一行当りサンプルデータ数が少ない中では、他行データは(例えばリスクを計量化する上で)貴重な情報
- 同規模先、同ビジネスタイプ先のオペリスク・プロファイルは、意外(?)に近似している可能性
- 信頼水準99.9%に対応するリスク量の「相場観」を掴むためには、他行データ/プーリングデータが不可欠 こうした「相場観」は、プーリング・データを使う限り、自動的に他行(他のデータ提供先)にも共有される(level playing field)というメリット
- 他行データは、テール部分の量的目安に加え、テール部分の質的変化の予兆把握、さらにはボディ部分の特徴把握・対策策定にも有効
- 主要外銀では、外部データを積極的に活用しているケースが目立つ

4. 外部データ/プーリングデータの活用に係るチャレンジ

- 如何なる目的に、外部データを用いるのか

例えば、

- 内部データを直接補完
- 内部データの適切性の検証
- シナリオ作成のサポート

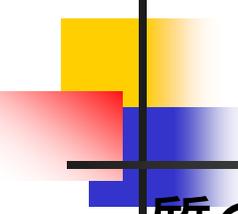
- データの質の違いをどのように勘案するか

- 内部統制・ビジネス特性の違いをどのように勘案するか

- データのスケーリングに際し如何なるインディケータを用いるか

➡ 多くの論点は、データ・プーリング主体の分析に強く依存する

➡ データ・プーリング主体が様々な研究をリードする必要



5. データ・プーリングに必要な要素とは

- 質の高いデータ提供が保証されるシステム
- データの機密性・匿名性が保持されるシステム
- 提供データ量の多寡が有利不利を生まないシステム
- Idiosyncraticな要因に左右されないデータベースを持つシステム
- オペリスク管理に係る様々なデータ活用が可能となるような情報が提供されるシステム
 - データの質に係る情報(提供行と他行とのベンチマーキング)
 - 相応しいスケーリング指標の分析
 - 何らかの内部統制指標の分析
- 高いガバナンス機能・経営の安定性を持つシステム
- 何故日本には、外部データやプーリング・データが存在しないのか